

教職支援センター活動報告③

—幼稚園教諭等採用試験対策実践・幼児教職課程指導実践から—

落合幸子
(教職支援センター特定教授)

1 はじめに

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」では、平成初期に5領域（「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」）が定義されて以来、3度の改訂を経て、現在では、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園が、3歳以上児の保育を「幼児教育」として共通のねらいと内容を持ち、共通の資質・能力を育てるための就学前教育のあり方を足並みそろえて推進する土壌が構築された。

この間、少子化は大きな社会問題となり、その対策として、「エンゼルプラン」（1995年）に始まり、いくつもの保育制度を通じて国としてのビジョンが示され、子ども・子育て関連の法案が制定されてきた。

教育・保育ニーズへの対策が進む中、近年大きな災害や子どもを巻き込む事件や事故も続き、保育者の人権意識や社会性、危機管理意識の向上等高い教師・保育者像が求められている。

このような時代を生き、未来を担う子どもやその家庭への支援・幼児教育を学ぶ学生の指導や、教職の道を志す学生を援助する仕事は非常に重要である。長年、幼児教育・保育現場で様々な保育や子育て支援を実践し、自治体の職員として保育施設への指導や保育施策や事業に関わり、職員採用の面接等にも携わってきた経験を活かして、今年度より本学の教職支援センターにて、進路相談、実技試験や面接試験の採用試験対策、教職応援セミナー等の就職に向けての支援を行っている。また、「幼児教育論」「教育実習論」「教職実践演習」等の教職課程科目の授業担当、教育・保育実習指導では、幼稚園実習・保育所実習・施設実習を担当し、幼児教育分野の教師・保育者養成の一助を担う仕事に携わり始めた。

2 教職支援の活動

(1) 相談利用状況

表1 月別相談利用数（2022.4月～11月）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
実数（人）	5	5	5	9	5	6	5	4	44
のべ数（人）	5	6	6	14	5	6	6	4	52

- ・今年度からの赴任ということで学生への認知度も低く数的な成果が低い。そのような状況ではあるが、手ごたえを実感したことや省察を行い、今後の指導にしっかり生かしていきたい。
- ・昨年度は、多くの相談がZoomによって行われていたが、今回は地方に帰省中の学生3件のみがZoomによる面接で、他は全員対面によって実施できた。
- ・受験自治体は、大阪市、吹田市、京都市、大津市、守山市、草津市、栗東市、近江八幡市、東近江市、奈良市、生駒市、天理市、香芝市、大和郡山市、湖南市、京丹後市、大垣市、高岡市、氷見市、米子市、倉吉市、湯梨浜町、下関市だった。近隣の自治体を複数受験する学生が多い。
- ・私立園は、神戸市、京都市、吹田市、茨木市、高槻市だった。
- ・4回生での利用者は、19名中18名が児童学科、1名が教育学科音楽専攻の学生だった。3回生3名は全員児童学科だった。
- ・4回生19名の学生も、16名が自治体の公立園を目指す学生で、私立幼稚園・認定こども園を目指す学生の利用は3名だった。内容は「進路相談」「個人面接」「模擬保育」だった。1次試験～2次試験～3次

表2 学年別相談利用

	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生 (含卒業生)	合計
実数(人)	0	0	3	19	1	23
のべ数(人)	0	0	3	48	1	52

試験と突破の過程で、必ず教職支援センターを利用した学生もいる。

- ・一方、教職カウンセラーへは「文章添削」「個人面接」で、のべ85名が利用している。同じ学生がエントリーシートや、1次～3次試験の内容に応じてカウンセラーと特定教授の両方を効率的に何度も利用したことで、合格を勝ち取っているケースが多い。カウンセラーと特定教授が指導内容や学生の状態を伝え合ったり連携を行うことで、それぞれの立場で専門的な指導を効果的に行うことができたと考える。中には、一緒に個人指導を行ったケースもあった。合格の報告を受けカウンセラーと共に喜びあい、カウンセラーとの連携の大切さを強く感じた。
 - ・公立園（＝地方公務員）を目指す場合、自治体によって試験の時期は春季、夏季、秋季と様々である。また2次試験まで、3次試験までと方法も違い、形式や内容、特に実技試験は大きく異なる。短くても2～3カ月は取り組み、自治体によっては申し込みから3次試験合格発表まで、実に数カ月を要し長期に渡って受験対策を続けなくてはならない場合もある。長期間の試験であっても、3回生の頃から進路相談を受け、4回生では目標に向かって根気よく取り組み続け、何度も個人面談を繰り返し実力と自信をつけていった学生は、難関を突破し合格を勝ち取っている。
 - ・教職支援センター利用者のうち、今年度受験を支援した約20か所の自治体については、今年度の支援の過程で得た各自治体の試験内容や傾向を、来年度の受験者への指導に活かしたい。また、公務員試験対策としては、キャリアセンター主催の「公務員講座」を紹介したり、教職支援センター利用者には合否に関わらず、後輩への情報提供として「教員採用試験情報アンケート」にも積極的に協力してもらいたいと考える。
 - ・私立園への就職を目指す場合は、母校や実習園で内定を受けたり、就職フェアや情報パンフレット、ウェブサイト希望園を見つけ、1回の試験や面接のみで就職が決まることも多いが、園によっては保育現場で実際に子どもたちを前にして実技試験を行う場合もある。私立園への就職を目指す学生も、園を選ぶポイントや試験対策について、教職支援センターを気楽に利用し相談をしてほしい。
 - ・10月以降の「教職応援セミナー」受講者を中心に、2回生、3回生からの進路相談を積極的にPRをし、早くから就職準備を開始してほしいことを伝えたい。今年度関わった学生の中には、もう少し早くからの連絡とあと何度かの指導を経て試験に臨んでほしかったと思ったケースが何件もあった。
 - ・幼児教育・保育の部門で、教職支援センターを活用する学生は今年度は多くはなかった。幼児教育・保育を学んだ学生のうち、どのくらいの学生が公立園に就職したのか、そのうち独学で合格した人が何人くらいいるのか、また私立園（幼稚園・保育所・認定こども園）や民間施設（養護施設・発達支援施設・障がい者施設等）や企業を選んだ人数等全体像も把握しておきたい。
- (2) 進路相談
- ・3回生の相談は進路相談から始まる。教職の道に進むかどうか、公立園と民間園の違い、また児童学科の学生は、幼稚園教諭と保育士のどちらの道を選ぶか等の相談を寄せてくる。4回生の進路相談はどの自治体を受験するか、受験希望の自治体の試験傾向についての相談になってくる。
 - ・教育学科（初等教育、音楽専攻）の学生は、幼稚園（認定こども園）、小学校、特別支援教育、音楽専任教師等取得する教諭免許の中で進路を悩む。小学校教諭の道を選んだ学生の多くは、特定教授やカウンセラーの指導を受けている。教育学科の学生は、幼児教育の道を志す学生の絶対数が少ないが、3回生から授業の前後に立ち話での相談を受けることもあった（利用件数に含まず）。授業や教育実習活動をとおして学生との繋がりや認知度をあげて、進路相談や面接指導をもっと積極的に行っていきたい。
 - ・複数の園や自治体に合格した学生から、どこを選択するかについての悩みの相談を受けることもあった。学生本人が家族の意向や相談をしながら自分で意思決定できるように、聞き手になりながら気持ちを整理する場面もしばしばあった。
- (3) 個人面談
- ・エントリーシート内容、個人面接対策、実技試験対策等の指導を行った。一人一人の個性や魅力を捉え、

教職支援センター活動報告②

自信をもってPRしていく箇所、苦手内容の克服への具体的なアドバイスと励まし、受験する自治体の特徴の捉え方など40分の時間を最大限に使用して指導を行ってきた。また、カウンセラーからの添削を受けることや、実際の面接を想定したやり取りの場数を踏むように指導を行った。

- ・ボランティア活動やクラブ活動、サークル活動、アルバイト等、学業以外にも課外活動を積極的に行い、その中から培った物事への積極性やリーダーシップ、コミュニケーション力を備えた能力の高い学生も多い。その力を面接の場で発揮できるように支援を行った。
 - ・一方で社会問題やニュースへの関心や洞察、受験自治体の特徴や愛着を語ること等に対しての掘り起こしに弱さを感じる。社会情勢や地方自治へ関心を持ち、テレビやインターネットによる一方的な報道や意見に捉われず、物事を多角的に捉え深く考察する力を身に付けてほしい。
 - ・エントリーシートを既に提出した後で相談に訪れる学生に対しては、エントリーシートの内容を確認し補足したり、面接での受け答えをシュミレーションしながら面接指導を行っている。シートを提出する前に一度指導を受けることを今後は進めていきたい。
 - ・できるだけ情報を収集して個人面談にやってくる学生もいれば、情報が乏しく不安を抱えている学生、どのような対策をとれば良いかわからずやってくる学生もいる。的確なアドバイスやヒントを提供できるように、一人一人の面談の前に、学生が受験する自治体や受験園についてリサーチをし、時間をかけて準備するように努めている。
 - ・学生が自信をもって面接に臨めるように、繰り返し面接指導を重ねている教職カウンセラーの姿勢や経験、スキルを見習うことも多い。
 - ・今後は自治体が1次試験で課すことが増えている様々な種類の「適正検査」についての知識も持ち、適切なアドバイスができることを自分自身の課題としている。
 - ・実技試験対策としては、教材作成や演じ方、絵本の解釈法や読み聞かせ方、ピアノの弾き方等魅力的な表現の方法について、一人一人に応じて丁寧な指導を行うように心掛けた。
 - ・今年度はまだコロナ禍のためか、自治体の採用試験においては集団面接を実施する自治体は多くなかった。少数だったが実施される自治体を受験する学生には、夏季に開催した「集団面接・集団討論講座」への受講を勧めた。コロナ感染症の収束状況によっては、来年度以降には集団面接を実施する自治体が増える可能性もあるため、その状況に応じて公立の幼稚園、保育所、認定こども園等への就職を目指す学生向けの「集団面接」セミナーの開催も視野に入れたい。
- (4) 教職課程ハンドブックの活用
- ・教職課程の概要や履修方法についてまとめた冊子を毎年度入学生に配布している。「教職応援セミナー」のテキストとしても使用し、教職を目指す際の学年ごとの備えや対策の指標として活用を勧めている。
 - ・教育実習論の教材として授業の中でも有効利用し、実習に行く時の心得を学ぶために、学生にもっと活用してほしい。
 - 1年次：教職への理解期
 - 2年次：教職への土台作り
 - 3年次：教職への準備万全期
 - 4年次：教職への決断期
- (5) 教職応援セミナーの開催
- ・昼休み時間（12：10～12：40）に実施。予約不要。京女ポータルにてお知らせ。
 - ・「開催のお知らせ」作成。「教職課程ハンドブック」持参。

【2回生対象講座（2回×2）】

回	日程	講座名	講座内容	参加人数
1	7/7 (木)	教育現場で学ぶこと ～学生ボランティア・教育実習～	ボランティア・教育実習に臨むにあたって ○心得や観察の視点を理解する	62
	7/14 (木)			62 計124
2	9/29 (木)	教育現場で学んだこと・課題 ～様々な経験を教職への道に活用しよう～	○教職課程ハンドブックに振り返りを記入 ○振り返りから学んだことや課題を共有し 新たな視点に気づく	52
	10/6 (木)			45 計97

- ・児童学科からの参加は、全体の参加者の9.5%だった。

【3回生対象講座（5回×2）】※㊦フォローアップ講座(月)1時限 (水)3時限

回	日程	講座名	講座内容	参加人数
1	6/27(月)・7/4(月)	2回生までの振り返りと今後の課題	○振り返り・リフレクションシート 教職課程ハンドブックから	42名・56名 計98名
2 ㊦	10/20(木)・10/27(木)	自己PR対策 「自己分析を自己PRにつなげる」	○自分を知ろう。 ○自分の良さを伝えるために	50名・35名 計85名
	10/24(月)・10/26(水) 10/31(月)			6名・8名・6名 計20名
3 ㊦	11/10(木)・11/17(木)	目指す教師像 「志望理由」	○理想とする教師像 ○望まれる教師像	30名・35名 計65名
	11/14(月)・11/16(水)			5名・5名・2名・6名
	11/21(月)・11/23(水)			計18名
4 ㊦	12/8(木)・12/15(木)	覚えておきたい基本マナー 「教員採用試験に向けて」	○覚えておきたい面接時のマナー 身だしなみ・立ち居振る舞い・言葉遣い	29名・20名 計49名
	12/12(月)・12/14(水) 12/19(月)・12/21(水)			
5 ㊦	1/12(木)・1/19(木)	面接対策 「思いを伝える」	○個人面接・集団面接 ねらいを理解した思いの伝え方	
	1/16(月)・1/18(水)			
	1/23(月)・1/25(水)			

- ・12/20現在、児童学科からの参加は、全体の参加者の3.7%である。
- ・昨年度から教職カウンセラーと特定教授が協働で実施している2回生・3回生対象に「教職応援セミナー」。打ち合わせにて、その回ごとの分担と内容を確認し合い実施した。
- ・3回生には、予約制のフォローアップセミナーを実施し、少人数で具体的なきめ細かい指導を行った。
- ・教職をめざす学生が、学年ごとにどのような備えが必要かを理解し、動き出すきっかけ作りになるセミナーである。今後も積極的に参加をして、前年度の利用者が、それ以降教職支援センターも有効利用し、採用を勝ち取ることを願って次年度も実施していく。
- ・児童学科や教育学科で幼児教育の保育者を目指す学生も、もっと教職支援センターを知り活用していく機会として受講してほしい。また、公立園への採用試験に挑戦する学生を増やしたい。

3. 教職課程科目の授業等における教師・保育者養成の活動

教職支援を行うことが責務であるが、高い資質を持った教員・保育者を養成し社会に送り出すことは、大学の重要な使命である。そのような願いをもって、今の学生にとって必要な知識や学びを伝えていきたいと自己研鑽を行っている。

① 「幼児教育論」

4回生4名、3回生33名が受講。多くの受講生は、教育学科の幼稚園や小学校教諭の免許取得を目指している学生だった。幼児の発達を踏まえた教師の関わりや就学前教育の基本について学ぶことで、小学校教諭を志す学生も幼児教育と小学校教育の連続性や接続について理解を深めてもらうことを目標とした。また、保育制度の変遷や社会情勢を学ぶことで、現代の教育現場の課題についての見識や関心をもってもらうことも目指した。選択科目ではあるが、幼稚園実習に行く教育学科の学生には積極的に受講してもらいたい。

② 「教育実習論（幼稚園）」

児童学科の幼稚園実習を行う学生が講義と演習、また教育実習を通して、幼児および保育者について理解を深め、幼稚園教諭に求められる幼児教育の理念と方法、専門的な知識を理論と実践の両面を習得することを目標としている。4回生に1回、3回生に5回、2回生に2回実施した。児童学科の教授のリーダーシップのもと、教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱの実習前や実習後の指導を行った。実習に向かう目的や自身の課題を明確にして、よく準備をして実習に向かうことは実習に対する基本的な姿勢である。

各学年100名以上の学生が、指定幼稚園であれば50園近い私立幼稚園に配当される。全国的に幼稚園（公立・私立・附属等）の割合は約64%が私立幼稚園と言われている中、それぞれが異なる建学の精神や教育理念を持つ幼稚園で実習する学生にとって、自身の実習園での学びもさることながら、実習後の振り返りを行い、様々な幼稚園の様子や同期の学生の学びを知ることや交流することは、学び合いの精神を持つことは勿

論、将来の教師像を描き、働きたい職場への展望を持つことにも繋がり大変有益である。

③ 「教育実習論Ⅱ」

教育学科の学生で、幼稚園実習を行う3、4回生14名への授業を担当した。母校実習（小学校実習）・幼稚園実習での授業・保育実践力の向上を目指し、教育実習における「授業・保育観察」及び「授業・保育実践」を行う上で必要となる教師としての「資質・能力」の育成をテーマとしている。教育学科の学生は様々な教育現場での実習を経て、将来どこで教育機関（あるいは企業）で働くかの選択過程のひとつではあり、幼児教育機関での学びが、将来どこに就職するにしても役立つような実習になってほしいと願いながら授業を行なっていきたい。実際、今年度幼稚園実習を行った3回生のうち、将来幼稚園で働くことを目指す学生は、11月の時点で3名である。また、前年度コロナ禍の影響で、附属小学校実習が行えておらず、初めての教育実習ということで、4月に4回の授業を実施したが、それだけでは事前指導が不十分だったと感じた。次年度は、状況によっては教育実習開始までに補講等の実施も検討したい。

④ 「保育・教職実践演習」

児童学科の4回生の幼稚園教諭免許及び保育士資格の全必修科目。

- ・保育者に求められる専門的知識及び技術、判断力、対人関係能力、倫理観の形成などについて振り返り、自らの学びを確認し課題を明確化する。
- ・保育・幼児教育に対する使命感・教育的愛情を持ち、子ども理解に基づいた保育内容の指導力、適切な学級運営を行う力等を身に付けることができる。
- ・保育・幼児教育に関する現代的課題について分析し、保育者としての対応を考えることができることを目標としている。

実習における保育・教職の体験をもとにグループディスカッションを行い、自らの学びの振り返りを行った。2人の現職のゲストスピーカーより幼稚園・保育園の実情と課題について実体験を元に講義していただき、保育者に求められる資質や能力、また、自らの保育観について考える機会となった。保育に関する現代的課題について、4名の教員が2回ずつ実施し、グループワーク・グループディスカッション等により問題を分析するとともに、保育者としての課題解決への取り組みを考える授業を目指している。しかし、事前課題の内容や授業への繋ぎ方がどうだったか、グループワークの進行はどうだったか、伝えたいことが多すぎて雑多な内容になってはいなかったか、自分の授業について課題を感じた。

⑤ 「教職実践演習（幼・小）」

教育学科で幼稚園・小学校で教育実習を行った4回生の学生99名を4クラスに分け、各クラスを2名の教員がオムニバスで授業を行った。15回の授業のうち、合同授業2回とゲストスピーカー講演3回を除き、10回の各主題に応じた授業を行った。小学校を主眼にした主題名が多かったが、幼稚園現場でも小学校現場でも課題意識を持てるような内容になるように心掛けた。特別支援教育に進む学生もおり、それまでの学びから人権教育やインクルーシブ教育の視点を持った考察がなされていた。

グループワーク、ロールプレイング、フィールドワーク、グループ発表、プレゼンテーション等を取り入れ、様々な実践演習の形で行った。ゲストスピーカーの講演は、実際の教育現場の取り組み事例を多数示していただいたり、専門職の理論と職務を丁寧に教えていただき大きな学びとなっている。

「保育者の専門性について」というテーマで、幼稚園の園長先生を招聘する機会も今年度はいただき良い経験となった。

⑥ 教育・保育実習指導（児童学科）

事前指導、訪問または電話による巡回指導、事後指導を実施。Zoomによる事前指導を求める3回生・4回生もあったが、日頃授業や校舎で出会うことが少ないので、帰省等の事情がない限り対面で行い、直接コミュニケーションをとることを大切にしている。各自の目標やオリエンテーションでの確認内容・注意事項を丁寧に伝えるようにした。オリエンテーションの結果をもとに巡回指導を行うので、きちんと報告してくれることを徹底させたい。4回生については進路も聞き、最後の実習への励ましを行った。

コロナ感染症関係での実習の中断や開始の延期等もあり、その調整で学生や実習園と連絡を取り合うことも多かった。学生への直接指導や関わりを持つ良い機会でもやり甲斐もあるが、週3日の出勤の範囲を超えてのやりとりとなりがちではある。

オリエンテーションの内容を知ることで園の実習環境や、一人一人の実習記録を読みこむことで、実習生や実習クラスにもよるが、指定園においてどの程度の部分実習や責任実習を行わせてもらっているかの大きなデータを念頭におくことで、次年度以降の指導に役立たせることができる。

- 教育実習指導 指定幼稚園実習…3回生6名（4園）、幼稚園実習…4回生5名（5園）
- 保育実習指導 保育実習Ⅰ（指定保育所）…2回生9名（4園）
保育実習Ⅱ・Ⅲ（保育所）…3回生6名（5園） 4回生6名（6園）
- 施設実習指導 保育実習Ⅰ（指定施設）…2回生6名（3施設）

4. 今後に向けて

今年度初めて本学における教職支援の業務に携わり、センターの仕事内容を少しずつ学んでいった。大学のシステムに不慣れな中、授業や個別指導に関しては模索しながら自分なりの方法で実施していったが、教職支援センターの業務の全体像や細かい事務内容などはまだまだ把握しきれておらず、学生の問い合わせに戸惑うことも多かった。

自治体の職員採用試験はその年々によって日程が変わることも多々あるが、今年度の4回生が受験した自治体について各試験日程を一覧表にし、次年度の4回生の受験準備や指導に役立たせたい。

授業については課題の出し方やフィードバックの方法、教育・保育実習指導における学生や実習園との関わり方、ポータルやメールを利用した学生との連絡やフォロー等、限られた出勤の範囲で行うことは難しいが、細やかで効果的かつ効率的な方法を可能な限り追及していきたい。

また、年明けからは、今年度の振り返りや次年度の準備も行いつつ、2月・3月は児童学科の実習指導室のスペースに出向き、実習や就職の相談を受ける場を整え、新年度に向けて教職支援を行う機会を自ら作っていきたいと考えている。

令和5年度4月には「こども家庭庁」が設置され、子どもや子育て当事者への新たなこども政策が推進される。そのような社会の流れをきちんと把握し貢献できる幼児教育者・保育者を養成し、世に送り出せるように微力ながら尽力したい。